

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名： **医学部医学科**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
<p>①-1 目標</p> <p>臨床実習時間を大幅に増加することが求められている。この面での教育をいかにして伸ばすか、他の基盤的教科への影響を最小限にするカリキュラム改革に努める。</p> <p>グローバル人材育成のために英語能力に秀でた学生の能力をより高めるプログラムをスタートさせる。</p> <p>補正予算、25年度通常予算で内示されている各種改修工事による教育上の影響をより少なくするよう努力する。</p> <p>より質の高い地域医療を担う人材を獲得するため、新たな推薦入試制度を平成26年度入試(25年12月)から開始する。</p> <p>地域医療実習をより充実させ、勉学に対する動機づけをより強力に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・従来58週であった臨床実習を72週まで増加させるカリキュラム改革を行い、他の教科については概ね10%程度の圧縮をすることで、影響を及ぼすことを最小限にとどめることができた。 ・入学直後に行う英語力測定により、能力の秀でた学生に対し特別な教育態勢をとることとした。 ・25年度において、18分野の移転を伴う臨床研究棟の耐震改修、図書館から旧栄養学棟までの大規模改修、新々総合診療棟建築に関わる埋文調査等がなされたが、自転車駐輪スペースの確保、工事車両搬入路の分離などで教育上の影響がほとんどないように進めることができた。 ・地域枠について新たに推薦入試を実施し、岡山、広島、兵庫、鳥取枠合計12名について優秀な人材を得ることができた。 ・さらに、地域医療を体験する1週間程度の本格的な実習を強力に推進し、全員にそれを課す道筋をつけた。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
医師国家試験合格者数、合格率	
②研究領域	自己評価
<p>②-1 目標</p> <p>臨床系分野の研究実施体制を改善するため、臨床研究棟の大規模改修を円滑に進める。研究手段として重要である共同実験室が現在展開している旧基礎棟は建物としての耐用年数に達するので、より継続的に利用できる場所等を検討する。</p> <p>基礎的研究力、分子遺伝子領域の研究を高めるように関係分野の整備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究棟の大規模改修に伴った実験スペースを可及的に確保するとともに、共同実験室も機能を落とさないようにスペースマネージメントをおこなった。 ・総合教育研究棟の建築がスタートし、研究スペースを確保すると同時に臨床遺伝学分野を立ち上げた。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
<p>③-1 目標</p> <p>岡山大学病院と連携し地域医療に貢献できる人材の育成に努める。特に地域医療充実のための地域枠を充足するよう努力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域枠を充足させるため、入試に推薦入試制度を導入した。併せて、当該学生の学力を担保するため、センター試験での下限を公表し、当初の目標を達成することに成功した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>平成25年度も多数の工事が新築、あるいは大規模改修として行われた。これにより教育研究態勢がより充実することが確実である。また、本病院が臨床研究中核病院に選定され、新たな医療機器、治療薬の開発を期待される存在となった。そのシーズは基礎的研究に負うところ大であり、現在進行中の環境整備と密接に関係している。地域医療への貢献と併せて、先端的研究の推進に努めたい。</p>	